

教育振興基本計画策定委員会（第1回）での発言より		
委員からの意見・質問		意見・質問への対応
1	○この計画は、誰に対して示している、読んで欲しい計画ですか。誰に対するメッセージが一番強いのですか。	魚津市民に向けての計画になります。
2	○教育振興基本計画をもって教育大綱に代えるとのことですが、多くの自治体でもそのように扱っているとは思いますが、大綱だけ定めている自治体もあるのではないですか。大綱はコンパクトで非常に重点が絞られているため、市民にとってこちらの方が分かりやすいのではないのでしょうか。計画を作ることに反対ではないのですが、力点を置くところを明確にした方が市民に伝わるのではないかと思います。いかがですか。	概要版を作成するなど、できる限り市民の皆様に分かりやすい計画づくりに努めます。
3	○目標を達成するための具体的な行動計画や方法が書かれていないように思います。学校への関わり方について、具体的に新たに始める項目、始めることにより成果指標の何%のポイントを上げる可能性がある、そのような目標達成志向で進めていただきたいと思います。いかがでしょうか。	具体的な行動計画の在り方につきましては、「第5章 基本目標達成のための施策と展開」で記載する予定で、第2回以降の策定委員会で成果指標の設定と併せてご協議いただく予定です。
4	○計画は、市民に向けての開示・PRが不十分だと思います。市民はもちろん、むしろ生徒を対象としたものが必要だと思います。施策目標を達成させていくために、この計画の当事者である小学生、中学生向けのものを作っていたくと計画が前進すると思います。	概要版を作成するなど、できる限り児童生徒にも分かりやすい計画づくりに努めます。

委員からの意見・質問	意見・質問への対応
5 ○学習支援員による個別支援の充实现場でも非常に配慮をされていますが、これ以上学習の個別化をしていくことより、コミュニケーション能力の育成や話すこと、自分で正しく聞く、それを超えて、相手を理解しようとする、その人間関係形成能力を育成していく必要があると思います。一対一の関わりの中で改善を図ろうというのではなく、現状そのクラスの中にいる仲間とどう関わりながら学びを深めるのか、全国的にも共同的な学習、対話的な学びと言われていますが、苦手かもしれませんが、力をつけていくときに、人をつけて個別に個別にとしていくのではなく、やはり学習形態そのものの見直しも図っていかなくてはならないのではないのでしょうか。	特別に支援を要する児童生徒等に係る人的支援は今後も継続していきたいと考えていますが、それだけでなく、社会的自立に向けた人間関係形成能力・社会形成能力等の育成は大切な視点です。授業のアップデートや地域資源の活用等に係る施策の在り方を検討し、方向性を示したいと考えています。
6 ○道下小学校の児童数が増えて、経田小も横ばいの中、統合が先延ばしになりそうであるとのことですが、学校の老朽化の問題もありますから。老朽化している経田小や、清流小学校がどうなるのか、お金だけの話になりがちですけども何か方向性は決まっているのですか。	統合未済や学校老朽化の問題につきましては、「第5章 基本目標達成のための施策と展開」で「小中学校教育の在り方検討」に記載する予定で、第2回以降の策定委員会でご協議いただく予定です。
7 ○学校教育の在り方検討の必要性について、問題提起で終わるということですか、具体的な方法を何かお示しになるのですか。また、いつお示しになるのですか。	ある程度の方向性をこの計画の中でお示ししたいと考えております。
8 ○地域の伝統行事・文化の継承者不足については、統廃合後、特に問題となっているように感じますが、逆手にとって広いエリアから人を集めるなどしていければ良いのではないのでしょうか。	委員ご指摘のとおりです。例えば、たてもん祭りにおいては、不足する担い手を広く募集する取り組みを行っております。またせり込み蝶六踊りにおいては、統合校であるよつば小学校において、蝶六保存会より直接指導を受けられるサークル設立により、技術継承が行われる取り組みも始まりました。他の統合校においても地域の伝統行事を学び、継承できるようなプログラムの実施にむけて検討を行っていることです。
9 ○基本目標案において、「生涯学習社会の実現」を「芸術文化活動の振興」・「スポーツ環境の充実」と改める案が示されていますが、その意図はどのようなことですか。人生100年時代になっており、不自然な気がします。	ご指摘のとおり基本目標において「生涯学習社会の実現」は必要不可欠であり、修正します。 別紙資料②骨子（案）参照

教育振興基本計画策定委員会（第1回）事後アンケートより

第2期魚津市教育振興基本計画の評価について

関連資料：第1回策定委員会資料②

委員から寄せられた意見・質問		意見・質問への対応
全 般	10 ○第2期計画の評価は、あまりにも定量性重視になっているような気がします。たとえ数値目標を達成できなくても、それに代わる定性的な何かがあれば、それで所期の目的が達成されることもあるのではないのでしょうか。	成果指標に関しては、参酌しなければならない国や県の教育振興基本計画にも設定されており、何らかの指標設定は必要だと考えております。ただし、各施策の取組みごとに成果指標を設定するかしにも含めて、その設定の在り方については、今後、協議していく予定です。
	11 ○客観的な評価だけではなく、第2期計画の期間中の成果を誇示してもいいのではないのでしょうか。数値目標の「未達」が並べられるだけでは、第2期計画は失敗だったとの印象が拭えません。むしろ、この5年間で「これを成し遂げた」と胸を張れる事項を記していただきたいと思います。「施策ごと成果」も書かれていますが、単なる事実関係の羅列だけでは不十分ではないのでしょうか。	第1回策定委員会でお示した第2期計画の評価については、あくまで次期計画策定に向けた検証作業となります。ここから見いだせる課題について整理し、次期計画に反映するよう努めます。
	12 ○定量的な達成状況を踏まえた教育振興基本計画の評価は、教育委員会内部で内輪の検討を行うのではなく、むしろ第三者委員会を設けて委ねるほうがいいのではないのでしょうか。	今後も教育委員会会議や市議会等の場を用いて、検証してまいりたいと考えています。
	13 ○計画目標値について「未達」が多い点が気になります。要因や展開についての記述もありますが、そもそも達成目標が高すぎるのではないか、ということも考えられます。 評価する際には、単に「未達」ではなく、どの程度達成したのかを「達成率」で示されてもいいのではないのでしょうか。また、施策によっては長期にわたるものもあるので、現時点では「未達」であっても、○年後には達成の可能性、というものもあると思います。 後に実績評価する際に、「達成」「未達成」だけでなく、進捗状況が分かるような「達成率」や「進捗率（数値化できない場合は、体感でもよい）」を添えていただけるとよいと感じました。	次期計画策定における成果指標の設定の在り方については、今後、協議していく予定です。 また、今後の成果指標の進捗状況については、達成率や進捗率でお知らせしたいと考えています。

	委員から寄せられた意見・質問		意見・質問への対応
学校教育	14	○第2期計画の5年の間に国の基本計画策定やコロナ禍の終息、コミュニティスクールの導入などがあつたにもかかわらず、それが反映されていないのはいかがかと思います。途中で見直しがあつてしかるべきだったと思います。少なくとも半期で見直すほうが信頼性は高まります。	委員ご指摘のコロナ禍やコミュニティ・スクールは、第2期計画にも一定程度記載されています。また、本市では毎年度「実績に関する施策・基本事業評価」と「事務の点検及び評価結果報告」を実施しており、国や県等の動向も鑑みながら、次年度の施策に反映してきたところです。今後も大きな社会情勢等の変化により修正する必要が出てきた際には、見直しを検討したいと考えています。
	15	○どの家庭も、子育ての最終目標は「自分の力で食べていけるようになること」ではないかと思います。そのための知識や技術を身に着けるのが、家庭や学校、地域での教育と考えます。 昨今「子を尊重」「個性を伸ばす」「個別支援」と『個』に目が向いてしまいがちですが、集団の中で暮らしていく力を身につけることも大切ではないでしょうか。 家庭も学校も、社会に出れば職場も「集団」、そしていろんな制約がある中『個』ばかり言っていられない中で、『社会的自立』が非常に重要だと思います。	ご指摘のとおり、様々な学習や体験、遊び等を通して、社会的自立につながる、自ら学び、考え、行動する力や豊かな人間関係を作るためのコミュニケーション能力を育成することは学校教育にとどまらず大切であると考えております。「個」への支援とともに、社会的自立につながる授業のアップデートや地域資源の活用等に係る施策の在り方を検討し、方向性を示したいと考えております。
生涯学習	16	○生涯学習活動の参加者総数を延べ人数で表したところで指して意味はないと思います。1人が100回参加するよりも、100人がそれぞれ1回参加するほうが、意味がある場合もあります。当該住民総数を分母に、参加経験者数を分子にして表してみるのも方法かもしれません。また、生涯学習活動は民間においても少なからず行われていることにも留意する必要があります。	参加者が固定化の傾向にあり、ご指摘のとおり数値目標を延べ人数をとる意義は乏しいと思われます。参加経験者数の把握方法を含め、検討いたします。 また、住民の多様なニーズに対応するためには民間教育事業者等との連携や情報収集が重要であり、「第5章 基本目標達成のための施策と展開」で記載する予定としております。

魚津市の教育の現状と課題について		関連資料：第1回策定委員会資料③	
委員から寄せられた意見・質問		意見・質問への対応	
全 般	17	○現状と課題」には必要性や方向性は述べられていますが、具体的な施策（how）が記されていません。施策がわからないと、十分なコメントはできません。	施策は第5章に記載いたします。 （第1回会議では第5章は示しておりませんでした。）
	18	○総花的に記されており、その事情は理解できますが、最も深刻な問題は何か、最も重要な課題は何かを明確にする必要があるのではないのでしょうか。まずは不安を取り除くことが肝要かと思えます。	教育振興基本計画は、本市の最上位計画である魚津市総合計画の教育分野における部門別計画です。学校教育のみならず、生涯学習、スポーツ・文化活動といった幅広い分野において、本市の教育に関する各種施策の具現化に向けた計画です。よって、国や県の教育振興基本計画と同様、総花的になってしまうのは、致し方のないところだと考えております。 次期計画の骨子の「第4章 魚津市がめざす教育」でお示ししております基本理念や基本目標から重要な課題が見えてくるものと考えております。
学 校 教 育	19	○「世界に飛躍する人材の育成」を目指すならば、何よりも外国語教育・英語教育が最も重要な柱の一つになるはずですが、それについての記述が見当たりません。これからもっと増えるであろう外国籍の子どもや帰国子女への対応にも触れられていません。世界に飛躍する人材育成に力を入れると大々的に明記しながら、外国語教育などに関する記述がないことを奇異に感じます。	英語教育についての記述を追加いたします。ご指摘のとおり英語教育はますます重要になると考えています。「英語教育」との関連としては、台湾の学校とのオンライン交流学习を通して、互いの学校生活や文化について紹介する活動を行い、ふるさとに根差した教育と国際交流を両輪としたグローバルな視野を育みたいと考えております。
	20	○母になるなら流山市」「父になるなら流山市」と言われますが、本市の教育における「売り」が見えてきません。残念ながらこれをご覧になって、「そうだ、子どもの教育を考えたら魚津に住もう」と思ってもらえるとは考えられません。とてもいい施策も講じてきているのですから、それらをもっとアピールすべきではないのでしょうか。	教育の分野を超えた定住施策や子育て環境の整備については、市全体の施策として総合計画等で取り扱う課題だと考えております。 なお、ご指摘のとおり、教育の特徴をアピールする工夫は大切であると考えております。
学 校 教 育 環 境 の 整 備	21	○「学校教育環境の整備」の箇所で、ぜひとも「教育環境の著しい不平等性がある」旨を明記していただきたいと思います。	記載内容は、今後、協議していく予定です。

	委員から寄せられた意見・質問		意見・質問への対応
生涯学習	22	○リカレント教育（学び直し）について、何かしらの記述が必要なのではないでしょうか。もちろん別の箇所でも結構です。	リカレント教育については、第5章の「施策4 ふれあい豊かな生涯学習の推進」の中で記載する予定です。
	23	○「生涯学習」の箇所で、「モビリティ（移動手段）」や「不十分な予算」についても触れてください。具体的な施策においても、ぜひ記してください。	高齢者の移動手段については、市全体の課題であり生涯学習施策として直接記述することは難しいですが、関連施策との連携を図りたいと考えております。 予算については、施策を踏まえ、必要な予算の確保に努めます。
図書館	24	○具体的な施策になるのかもしれませんが、「図書館」の利用者を増やすには駅舎付近における分室や返却箱の設置も有力な選択肢になるかと思います。	平成30年より利用者の利便性向上を目的として、市役所内に返却ポストを設置しております。 また、ご提案にあります駅舎付近への分室の設置につきましては、利用者の利便性向上に資する施策と思われますので、費用面も含めて導入の可能性について調査研究を進めてまいります。
博物館	㊦ （全般）	○博物館や水族館の現状分析を、その必要性を含め、もう少し深く行ってはどうでしょうか。	こどもの人口の急激な減少は、魚津市の将来を見据えた上でも、非常に深刻な課題です。 市内にある3つの博物館がそれぞれの特徴や強みを活かして、人口減少等の課題解決につながる取組みを進めていくことが必要であると考えております。 今後も、より深く現状を分析し、施策の中に反映できるよう努めます。
	㊦ （歴史博）	○また、これも具体的な施策になるのかもしれませんが、小中学校教育との連携なども考えられるのではないのでしょうか。	歴史民俗博物館では、小中連携について、「魚津市ふるさとキャリア教育スタンダードプラン」のなかに博物館での展示や施設等の見学、解説を通して、郷土の歴史を学ぶ取組みを実施しております。
	㊦ （水族館）	○人口減、特にこども人口の激減は、かなり深刻であると受け止めています。この点においては、この基本計画策定と異なる分野での課題も多くありますが、それぞれの枠を超えての議論や施策が望まれます。	水族博物館では、令和元年より市内小学校の連携事業として「ホタルイカ出前講座」を行っております。実際に生きたホタルイカに触れることで、生物を通じて、教科書だけでは伝わりにくい知識・感覚を育んでおります。
	㊦ （埋没林）	○一方、魚津水族館や埋没林博物館は、魚津市独自の財産とも呼べるものなので、さらなる有効活用を期待します。	埋没林博物館では、特別天然記念物の魚津埋没林の保存・展示、蜃気楼の観測・情報発信のほか、魚津の自然に関する企画展示や講座の実施等、市民に生涯学習の機会を提供しております。また「ふるさと発見バス」の受け入れや講師派遣等、学校教育との連携を図っております。

魚津市教育振興基本計画骨子（案）について		関連資料：第１回策定委員会資料④	
骨 子	委員から寄せられた意見・質問		意見・質問への対応
	26	○「現状と課題」には何ら記されていなかった「SDGs」や「ウェルビーイング」がいきなり登場することに若干の違和感があります。どこかに前触れがあってもいいのではないでしょうか。	骨子でお示した「第１章 教育振興基本計画の策定にあたって」及び「第２章 魚津市の教育を取り巻く状況」については、事実関係を記載する項目であることから、まだ、策定委員会へ記載内容をお示ししておりません。今後、「第３章 魚津市の教育の現状と課題」より前の方にSDGs」や「ウェルビーイング」といった記載を予定しております。
	27	○県の動向はともかくも、数年先の国の動向を正確に参酌・反映することはできるのでしょうか。	現在の社会情勢を踏まえて、国や県の教育振興基本計画を参酌する形になります。
	28	○提示の骨子の項目そのものに大きな異論はありませんが、そもそも「備考」の記述が多すぎ、まだ本来の骨子になっていないような気がします。	備考はあくまで、策定委員の皆様の理解を深めるために参考説明として記述しました。骨子は、骨子の第３期計画の欄に記載された項目が該当します。

学校教育の在り方について 関連資料関連資料：第1回策定委員会資料⑤⑥⑦		
委員から寄せられた意見・質問		意見・質問への対応
29	○行財政改革の観点からも、規模の適正化が重要であることは理解できますが、数字ありきになっていることを強く危惧します。	数字ありきではなく、こどもまんなか社会の考え方を念頭に計画を策定します。
30	○「概ね10年後を想定した市全体の小中学校教育の在り方」といった場合、たとえば小中一貫校や義務教育学校の設置まで踏み込む必要があると思いますが、そこまで検討は進んでいるのでしょうか。十分な検討を経ないまま、単に計画に記すのはいささか問題かと思います。	記載内容は、今後、協議していく予定です。
31	○横並びがいいわけではありませんが、類似自治体の小中学校についての参考資料を付けていただけると、異なる視点からの検討も可能になると思います。	資料として整理できるかどうかは他市の記載状況等によりますが、何らかの形でご説明したいと考えております。
32	○教育環境の著しい不平等として、ぜひとも具体的な校名を挙げ、建て替えについて明記してもらいたいと思います。	記載内容は、今後、協議していく予定です。
33	○現在、5つの小学校に統合されていますが、今後も児童生徒の増加が見込めないということであれば、市内2つの中学校（魚津西部、魚津東部）をそれぞれ義務教育学校にする可能性も視野に入れていただきたいと思います。	記載内容は、今後、協議していく予定です。
34	○教育のあり方意見交換会での意見では、保護者の方たちが20人台程度の学級編成を要望しておられますが、教育現場の先生方はどのように思っておられるのかと感じました。 学級経営、グループ活動等の活動にもかかわってくると思いますが、理想の生徒数は、何人くらいなのでしょう。	1学級あたりの適切な人数については、学年や発達段階、学習場面によって異なるかと思います。現在、1学級の上限人数は小学校では35人、中学校では40人となっております。小学校ではご指摘の20人～30人となる学級がほとんどで、この人数であれば、少人数と多人数のメリットを生かして、学習形態を工夫することで効果的な学習場面をつくることが可能かと思われます。
35	○統合後、何年か経過すると再度、規模の適正化について見直しが必要になると感じています。 そのたびに、人数や通学区域等の議論が必要になるため、それであれば、小中一貫義務教育学校を市に1校か2校建設する等の考え方もあるのではないのでしょうか。また、保育所や高校のように、小・中学校も自分で選択して通えるようにできればいいのではと思います。	記載内容は、今後、協議していく予定です。

自由記述		
委員から寄せられた意見・質問		意見・質問への対応
36	○繰り返しになりますが、「これが魚津の教育だ」「教育環境で選ぶなら魚津」と思ってもらえるような新計画を切に期待しております。人口減少・少子化が所与のものとして記されていますが、ユニークな教育環境によって転入者を増やすことも考えるべきではないでしょうか。	転入者を増やすことにつきましては、教育の分野だけではなく、市全体の施策として総合計画等で扱う課題だと考えております。
37	○具体的な施策が示されないとコメントできないことが多々ありますので、もう少し具体化された段階で再び委員の意見を求めるか、あるいは会合を持っていたきたいと思います。	具体的な施策につきましては、「第5章 基本目標達成のための施策と展開」で記載する予定です。
38	○前回初めて参加させていただき、改めて、さまざまな施策に取り組んでいらっしゃるのことがわかりました。しかし、限られた人員と予算、期限の中ではできることの限界もあると思います。今後掲げられる施策については、すべてを満遍なくというのではなく、「特に重要な項目は何であるか」あるいは、実施する際の「優先順位」のようなものを明記していただけると、委員としては意見が述べやすいと感じます。	特に重要な事業や事業の優先順位については、判断が難しい部分があります。 各年度における教育委員会の重点事業については、当初予算発表時に公表しております。
39	○幼児教育の充実について、公立園としての役割やニーズとは具体的にどのようなものがあげられますか？	公立園には、「子育て支援の中核的機能」「民間施設に対する相談・支援機能」「定員調整機能」「多様なニーズへの対応」等の役割があります。
40	○会議の委員の構成比・年齢構成について、女性や、若い年代の人の意見も取り入れるため、募集段階から検討の余地があると思います。	今後の各種委員選出に当たっては、しっかりと考慮します。

その他、参考意見	
委員から寄せられた意見・質問	意見・質問への対応
41	○すでにある程度の思いは記させていただきました。決して他意はありませんので、悪しからずご容赦ください。
42	○人口減が甚だしい魚津市ですが、教育の環境については周辺自治体に比べてもかなり優位にあると思います。小学生年齢においては、児童センターが充実しており、他市町村の保護者の方からは「魚津市はいいよね」とお聞きすることもあります。また、今回の基本計画には直接関係ないことかもしれませんが、現在魚津市内には、2つの全日制県立高校、1つの定時制県立高校、1つの私立高校、1つの大学校があり、以前あった洗足学園短大の流れから毎年「全国大学女子野球選手権大会」が行われるなど、教育への関心が高まりやすい環境にあると思います。幼児教育から小中学校、そして高等教育が一貫して行える文教都市として、県東部をけん引するような存在であってほしい、と願っています。
43	○委員の方の、「誰のための計画ですか？」という意見がありましたが、こども達を対象とした計画でもあるのであれば、勉強する意義、学校へ行く意義、よりよく学ぶための方向性をいくら説明しても、説明する大人がその意義について理解していなければ意味がありません。 伝える先生・親等大人の教育が先ではないかと思いました。

教育委員会議での発言より

教育委員からの意見等		意見・質問への対応
44	○国の教育政策の目標には、「教育DXの推進・デジタル人材の育成」という項目があります。第3期計画骨子の第2章の魚津市の教育を取り巻く状況に、情報通信技術（ＩＣＴ）の進展の記載がありますが、骨子「第5章 基本目標達成のための施策と展開」には記載がないのはどうしてですか。デジタル人材の育成について、国と同様に魚津市においても考慮すべきだと思います。	ＩＣＴ機器の活用による教育の推進について、第5章の2「学力向上の取組み」に位置付けて記載する予定です。また、教職員のＩＣＴ活用指導能力と児童生徒の資質・能力の育成についても、数値目標も示して記載する予定です。